

第十一回 神戸能

平成31年3月21日（木・祝）
午後1時開演（午後12時半開場）
神戸文化ホール 中ホール

能 百万

法楽之舞

勝部延和

狂言 蝸牛

善竹忠重

能 殺生石

白頭

田中章文



主催 / 公益社団法人 能楽協会神戸支部

共催 / 公益財団法人 神戸市民文化振興財団 神戸文化ホール

全席自由席（税込）4,700円 学生1,800円

※未就学児の入場はご遠慮いただきます。

第十一回神戸能イベント神戸能解説セミナー ※各区民センターは事前申し込みが必要です。

※セミナー料金 500円（※本公演のチケットの提示でイベント入場料無料）

須磨区民センター ☎078-735-7641 2月11日（月・祝）

開場13:30 開演14:00 受付開始日:12月11日（火）

西区民センター ☎078-991-8321 2月28日（木）

開場13:30 開演14:00 受付開始日:12月11日（火）

神戸文化ホール大ホールロビー 2月14日（木）

開場13:30 開演14:00 発売日:12月14日（金）

※神戸文化ホールは神戸文化ホールプレイガイドのみにて取り扱い

チケット発売日

文化ホール友の会先行発売:

2018年12月11日（火）10:00～

一般発売:2018年12月14日（金）10:00～

■ チケット発売

神戸文化ホール プレイガイド

チケットぴあ（Pコード:490-171） ☎0570-02-9999

ローソンチケット（Lコード:53835） ☎0570-084-005

eプラス（<http://eplus.jp>）

CNプレイガイド

☎078-351-3349

☎0570-02-9999

☎0570-084-005

☎0570-08-9999

■ 交通…地下鉄「大倉山駅」下車すぐ、

「JR神戸駅」・「高速神戸駅」から北へ徒歩10分

■ 問い合わせ先…

神戸文化ホールプレイガイド ☎078-351-3349

第十一回 神戸能

2019年3月21日(木・祝)午後1時開演(午後12時半開場)

解説 笠田昭雄

能 「百万」 法楽之舞

百万	勝部 延和	後見	橘 保向
百万の子	吉井 晟朝		森 壽子
里人 釈迦堂 門前の者	江崎 欽次郎 善竹 忠亮	地謡	上田 貴弘 笠田 稔 吉井 基晴 山田 義高 笠田 昭雄 藤谷 音彌 上田 宜照 笠田 祐樹
笛	八木原 周平		
小鼓	高橋 奈王子		
大鼓	大村 滋二		
太鼓	梶谷 義男		

狂言 「蝸牛」

山伏	善竹 忠重	後見	善竹 忠亮
主人	小林 維毅		
太郎冠者	岡村 和彦		

休憩

能 「殺生石」 白頭

里女 野干の精 玄翁道人 玄翁の従者	田中 章文 是川 正彦 牟田 素之	後見	上野 朝義 長山 耕三 佐伯 紀久子
笛	八木原 周平	地謡	藤井 完治 山村 啓雄 上田 拓司 下川 宜長 上田 大介 藤井 丈雄 梅谷 宏 上田 顕崇
小鼓	古田 知英		
大鼓	大村 滋二		
太鼓	梶谷 義男		

能 百万 法楽之舞

吉野の男(ワキ)が奈良・西大寺で男の子(子方)を拾ったので、その子を連れて京都・清涼寺で催される大念仏に参加します。そこへ百万という狂女が現れ、さまざまに面白く狂って見せます。そのうちに百万は、夫を亡くし、忘れ形見の我が子と生き別れてしまい、正気を失ったことを語りつつ狂乱し、子どもとの再会を仏に祈るのでした。

その様子を見ていた子どもは、百万が自分の母親だと気づき、同行の男に、出身地や正気を失った理由を尋ねるよう頼みます。すると百万は、自分は奈良の者であるが、夫とは死別し、一人の子どもと生き別れたことを語り、人前で恥をさらすのも子どもと逢うためだと言い、さまざまな舞を舞います。

その姿に男は心を動かされ、男の子を百万に逢わせます。百万は喜び、仏法の功德に感謝し、奈良へ帰るのでした。



©ウシマツ写真工房

狂言 蝸牛

太郎冠者は主人から「蝸牛」をとってくるように命じられますが「蝸牛(カタツムリ)」を見たことがなく、どんなものかわからず、竹やぶで寝ていた山伏を蝸牛と思い込みます。カタツムリになりすました山伏は、「でんでんむしむし」と囃します。そこに現れた主人は「あれは蝸牛ではなく山伏だ」と説得しますが次第に太郎冠者と主人を巻き込んでいくのでした。



©公益社団法人能楽協会

能 殺生石 白頭

玄翁という僧が下野国那須野の原(栃木県那須郡那須町)を通りかかります。そこには大きな石があり、その石の上を鳥が飛ぶと、すべて落ちてしまいます。不思議に思い、石に近づいて見ようとしませんが、女が現れ、近寄ってはいけないと玄翁に教え、石の由来を語ります。

「その石は殺生石と言い、近づくものすべてを殺してしまう石です。この那須野の原で命を落とした、狐の化け物である玉藻の前という女性の魂が石となったのです。」

そう語り終えると女は、実は自分が殺生石の石魂であると明かし、石の中に隠れて消えてしまいました。

玄翁は、石魂を成仏できるように法事を執り行います。すると石が割れて、野干(狐の妖怪こと)が姿を現します。野干は、天竺(インド)や唐(中国)でも世に乱れをもたらしたことを語ります。

そして今、僧が成仏をしてくれたので、今後は悪事をいたしませんと、固い約束をし消えていきます。



©ウシマツ写真工房

神戸文化ホール



お問い合わせ: 神戸文化ホール プレイガイド ☎ 078-351-3349